

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

出願人代理人

鈴木 知

様

あて名

〒 102-0074  
東京都千代田区九段南4丁目6番9号  
OSビル6B号室

PCT  
国際調査機関の見解書  
(法施行規則第40条の2)  
[PCT規則43の2.1]

発送日  
(日.月.年)

25. 1. 2005

出願人又は代理人  
の書類記号

PCT003

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号

PCT/J P 2004/015025

国際出願日

(日.月.年) 12. 10. 2004

優先日

(日.月.年) 17. 10. 2003

国際特許分類 (IPC)

Int. Cl<sup>7</sup> C21D1/76, C21D9/46

出願人 (氏名又は名称)

中外炉工業株式会社

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☒ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

07. 01. 2005

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)  
郵便番号 100-8915  
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)  
佐藤 陽一

4 K

3 5 5 7

電話番号 03-3581-1101 内線 3435

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

## 第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、\_\_\_\_\_ 語による翻訳文を基礎として作成した。  
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ ☐ 配列表

☐ 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット ☐ 書面

☐ コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる

☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された

☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

## 第Ⅴ欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-3	有 無
	請求の範囲		
進歩性 (IS)	請求の範囲		有 無
	請求の範囲	1-3	
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-3	有 無
	請求の範囲		

## 2. 文献及び説明

文献1: JP 10-72624 A (日新製鋼株式会社)  
1998.03.17, 0001-0004 (ファミリーなし)

文献2: JP 2003-247787 A (中外炉工業株式会社)  
2003.09.05, 0006  
& EP 1338659 A1

文献3: JP 11-158559 A (住友金属工業株式会社)  
1999.06.15, 特許請求の範囲, 図面 (ファミリーなし)

文献4: JP 57-35620 A (オリエンタルエンジニアリング株式会社)  
1982.02.26, 発明の詳細な説明 (ファミリーなし)

文献5: JP 53-110909 A  
(オリエンタルエンジニアリング株式会社)  
1978.09.28, 発明の詳細な説明 (ファミリーなし)

## 請求の範囲 1-3

請求の範囲 1-3に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1-5より進歩性を有しない。

文献1の0002にはホワイトパウダーが被熱処理鋼帯自体の物質から光輝焼鈍炉内で形成されることについて記載されている。文献2の0006には被熱処理鋼帯中に含まれるホウ素が蒸発してホワイトパウダーが発生することについて記載されている。文献3には、公知の炉内雰囲気について記載されており、この炉内雰囲気はホウ素が酸化される雰囲気である。

上記より、ホワイトパウダーの主成分がホウ素酸化物であること、及び被熱処理鋼帯中に含まれるホウ素の酸化を防止することによりホワイトパウダーの生成を抑制することが可能であることが認められる。

## 第VI欄 ある種の引用文献

## 1. ある種の公表された文書(PCT規則43の2.1及び70.10)

出願番号 特許番号	公知日 (日. 月. 年)	出願日 (日. 月. 年)	優先日 (有効な優先権の主張) (日. 月. 年)
J P 2003-306744 A 「P, A」	31. 10. 2003	03. 02. 2003	14. 02. 2002

## 2. 書面による開示以外の開示(PCT規則43の2.1及び70.9)

書面による開示以外の開示の種類	書面による開示以外の開示の日付 (日. 月. 年)	書面による開示以外の開示に言及している 書面の日付 (日. 月. 年)

## 補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 欄の続き

V

被熱処理鋼帯中に含まれるホウ素の酸化防止手段について検討すると、文献4、5の発明の詳細な説明には、高温域において炉内に炭化水素ガスを導入することにより、被熱処理鋼帯中に含まれる元素の酸化を防止する方法が記載されている。文献4の発明の詳細な説明には、炭素及び炭化水素ガスの酸化・還元の程度が水蒸気分圧に依存することが示唆されている。文献4、5の発明の詳細な説明には、炉内に炭素を導入することにより、被熱処理鋼帯中に含まれる元素の酸化を防止することが可能であることが示唆されている。また、被熱処理鋼帯中に含まれるホウ素の酸化を防止するために文献4、5に記載された手段を採用すれば、これに付随して炉内雰囲気の水蒸気分圧は $1 \times 10^{-5}$ よりも小さくなると認められる。

文献1－5の発明は光輝焼鈍炉の炉内雰囲気制御という点で同一の技術課題を有するので、ホワイトパウダーの生成を抑制するために、炭化水素ガスの導入及び炭素を含む化合物の添加により炉内の水蒸気分圧を $1 \times 10^{-5}$ よりも小さくすることは、当業者であれば容易に想到し得たものである。